

第5号様式

(第1面)

事業活動脱炭素化取組結果報告書

(宛先) 川崎市長

郵便番号 101-0061

住 所 東京都千代田区神田三崎町三丁目3番23号

氏 名 株式会社ロジスティクス・ネットワーク

代表取締役社長 馬場園 修三

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社ロジスティクス・ネットワーク		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区東扇島6-15		
該当する事業者の要件 及び温室効果ガスの排 出を行う産業、運輸そ の他の部門	<input checked="" type="checkbox"/>	規則第4条第1号該当事業者	産業 部門
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第2号該当事業者	部門
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第3号該当事業者	部門
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第4号該当事業者	部門
主たる事業 の業種	大分類	H	運輸業, 郵便業
	中分類	47	倉庫業
主たる事業 の内容	低温物流事業 (主に食品の冷凍冷蔵保管、及び食品物流)		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量	3,134 kL
	<input type="checkbox"/>	自動車の台数	台
	<input type="checkbox"/>	エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄	※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	2024年度	2026年度	(報告年度 2024年度分)
事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量及び当該量の削減に係る事項	別添	指針様式のとおり	
エネルギーの使用量及び当該量の削減に係る事項	別添	指針様式のとおり	
再生可能エネルギー源の利用及び使用するエネルギーの電化に係る事項	別添	指針様式のとおり	
自動車の使用に伴う温室効果ガスの排出の量の削減に係る事項	別添	指針様式のとおり	
温室効果ガスの排出の量の削減等に寄与する技術又は製品の開発等に係る事項	別添	指針様式のとおり	
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添	指針様式のとおり	
備考			

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動脱炭素化取組指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。

3 事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量及び当該量の削減に係る事項

(1) 計画期間の温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量((基)は基礎排出量を、(調)は調整後排出量を示す。以下同じ。)

	1、2号該当者		3号該当者		4号該当者	
基準年度	2023	年度	2023	年度	2023	年度
目標年度	2026	年度	2026	年度	2026	年度
基準排出量 (t-CO ₂)	(基) 6,135 (調) 200		(基) (調)		(基) (調)	
目標排出量 (t-CO ₂)	(基) 5,953 (調) 5,083		(基) (調)		(基) (調)	
削減量 (t-CO ₂)	(基) 182 (調) -4,883		(基) (調)		(基) (調)	
削減率	(基) 3.0 % (調) -2441.7 %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	

イ 温室効果ガスの排出の量の実績

			1、2号該当者		3号該当者		4号該当者	
第1年度	(年度)	排出量 (t-CO ₂)	(基) 997 (調) 997		(基) (調)		(基) (調)	
		削減量 (t-CO ₂)	(基) 5,138 (調) -797		(基) (調)		(基) (調)	
		削減率	(基) 83.7 % (調) -398.5 %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	
第2年度	(年度)	排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減率	(基) % (調) %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	
第3年度	(年度)	排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減率	(基) % (調) %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	

(2) これまでの取組における温室効果ガス排出の量の削減目標等

	1、2号該当者		3号該当者		4号該当者	
比較年度	2014	年度	2013	年度	2013	年度
比較年度排出量 (t-CO ₂)	(基) 3,901 (調) 3,901		(基) (調)		(基) (調)	
目標排出量 (t-CO ₂)	(基) 5,953 (調) 5,083		(基) (調)		(基) (調)	
削減率 (目標)	(基) -52.6 % (調) -30.3 %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	
削減率 (第1年度)	(基) 74.4 % (調) 74.4 %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	
削減率 (第2年度)	(基) % (調) %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	
削減率 (第3年度)	(基) % (調) %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	

(3) 目標設定に関する説明

温室効果ガスの排出量の削減を図るため、排出量を前年比1%以上削減することを前提に目標を設定した。
 (2)の比較年度2013年度との差異については、2020年4月よりNL関東が運営していた部分を当社に1本化したことにより活動量が増加(延床面積: +35,290.29㎡)したことによってCO2排出量が増加したことにより削減率がマイナスとなっている。

(4) 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況及び措置の状況等

(計画には、計画期間内に実施する温室効果ガスの排出量の削減に向けた措置の内容を事業活動脱炭素化取組指針の別表第1から6等を参考に記載してください。)

計画	(1) 冷凍機効率運転調整(デフロスト・デファレンシャル・セーブモード運転の見直し) (2) トラック接車時など外気侵入防止による冷凍機運転時間の削減 (3) EV社有車の電力使用量把握 (4) 屋外で使用する内燃機関式フォークリフトをバッテリー式に変更 (5) 1、2期冷蔵庫棟各LED照明更新工事による削減
第1年度	(1) 冷凍機効率運転調整 →デフロスト周期調整・デファレンシャル・セーブモード運転の見直し (2) トラック接車時など外気侵入防止による冷凍機運転時間の削減 →2期棟エアシェルター更新工事14箇所、1期棟接車バース外気排出装置
第2年度	
第3年度	
計画期間における排出量の増減等についての評価 (第3年度の報告時に記載)	
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	

4 エネルギーの使用量及び当該量の削減に係る事項

(1) エネルギーの使用量に係る原単位等の値 (1、2号該当者)

原単位等の活動量	延床面積		原単位等の単位		k1/千㎡
	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標年度
エネルギー消費原単位等の値	36.35	35.88			35.27
活動量の値	87.34	87.34			84.50
エネルギー消費原単位等の削減率		1.3 %	%	%	3.0 %

(2) 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (4号該当者)

原単位等の活動量			原単位等の単位		
	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標年度
排出量原単位等の値					
活動量の値					
排出量原単位等の削減率		%	%	%	%

(3) 目標設定に関する説明

エネルギーの使用量原単位の削減を図るため、エネルギー使用量を前年比 1%以上削減することを前提に目標を設定した。

(4) 基準年度からの原油換算エネルギー使用量等の推移(1、2号該当者)

ア 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
原油換算エネルギー使用量	3,071 kL	3,134 kL	kL	kL
エネルギー起源CO ₂ 排出量	6,135 t-CO ₂	997 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
事業所の数	3	3		

イ 事業所単位

基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
東扇島物流センター	川崎市川崎区東扇島6-15	5,162	839		

(5) 計画期間のエネルギー消費原単位等の状況及び措置の状況等

(計画には、計画期間内に実施するエネルギー消費原単位の改善、エネルギー使用量の削減等に向けた措置の内容を事業活動脱炭素化取組指針の別表第1から6等を参考に記載してください。)

計画	(1) 冷凍機効率運転調整(デフロスト・デファレンシャル・セーブモード運転の見直し) (2) トラック接車時など外気侵入防止による冷凍機運転時間の削減 (3) EV社有車の電力使用量把握 (4) 屋外で使用する内燃機関式フォークリフトをバッテリー式に変更 (5) 1、2期冷蔵庫棟各LED照明更新工事による削減
第1年度	(1) 冷凍機効率運転調整 →デフロスト周期調整・デファレンシャル・セーブモード運転の見直し (2) トラック接車時など外気侵入防止による冷凍機運転時間の削減 →2期棟エアシェルター更新工事14箇所、1期棟接車バース外気排出装置
第2年度	
第3年度	
計画期間におけるエネルギー消費原単位等についての評価 (第3年度の報告時に記載)	
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	

5 再生可能エネルギー源の利用及び使用するエネルギーの電化に係る事項 (1、2号該当者)

(1) 再生可能エネルギー源等の導入

ア 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入 (基準年度)

種類	設備規模 (kW)	発電量 (kWh/年)	余剰売電量 (kWh/年)	導入 (保有) 年度
太陽光	818	885, 126		2020
風力				
バイオマス (燃料:)				
その他 ()				
その他 ()				
合計	818.4	885, 126	0	

イ 使用電力の再生可能エネルギー電源比率

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標年度
電力エネルギー 消費量	14, 250, 076 kWh	14, 529, 453 kWh	kWh	kWh	13, 826, 834 kWh
再エネ電源等	1, 553, 374 kWh	1, 552, 411 kWh	kWh	kWh	1, 553, 374 kWh
再エネ電源比率	10.9 %	10.7 %	%	%	11.2 %

(2) 電気事業者等から調達する電力の排出係数

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標年度
排出係数 (kg-CO ₂ /kWh)	0.390	0.431			0.390

(3) 使用エネルギーの電化の取組

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標年度
電化の割合	99.6 %	99.7 %	%	%	96.7 %

(4) 目標設定に関する説明

川崎市内の事業所は、当社グループ物件は東扇島物流センターのみであり、すでに太陽光発電設備を設置済みで他 2 事業所はかわさきファズより賃貸された区画の事業所であり、当社の意向で再エネ設備を設置することは困難な状況である。
従って、使用電力の再生可能エネルギー電源比率のさらなる改善については、買電電力使用量と既設太陽光発電設備の発電量のモニタリングに注力し、太陽光発電設備を含めた電力使用量を前年比 1 % 以上削減を目標とする。
なお、電気事業者等から調達する電力の排出係数について、現在の電気事業者から変更する意向はないので目標年度の排出係数は基準年度と同じ値とした。

(5) 計画期間の再生可能エネルギー等の導入、電気事業者等から調達する電力の温室効果ガス排出係数等の状況

計画	太陽光発電設備の発電量モニタリングと発電量維持のためパネル洗浄。	
第1年度	太陽光発電設備の発電量モニタリングと発電量維持のためパネル洗浄。	
第2年度		
第3年度		
計画期間における再生可能エネルギー等の導入等の評価 (第3年度の報告時に記載)		
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		

7 温室効果ガスの排出の量の削減等に寄与する技術又は製品の開発等に係る事項

(1) 全社を含む取組

ア 脱炭素表明・中長期の温室効果ガス削減目標の設定

項目	計画	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
(ア) 脱炭素に向けた表明の有無				
有無	2050年までの脱炭素化表明有・計画有	2050年までの脱炭素化表明有・計画有		
内容	2050年のカーボンニュートラルの実現	2050年のカーボンニュートラルの実現		
(イ) 脱炭素に向けた表明の達成年度の目標				
年度	2050 年度	2050 年度	年度	年度
(ウ) 中間目標				
目標	2030 年度	2030 年度	年度	年度
	56 %削減 (2015)年度比	56 %削減 (2015)年度比	%削減 ()年度比	%削減 ()年度比

イ 脱炭素化に資するイノベーションの取組

項目	計画	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
有無	取組実績なし	取組実績なし		
内容				

ウ 中長期的な視点での温室効果ガスの排出量の削減目標

項目	計画	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
有無	有	有		
内容	2030年度グループ目標：CO ₂ 排出量56%削減（2015年度比、国内Scope1, 2）	2030年度グループ目標：CO ₂ 排出量56%削減（2015年度比、国内Scope1, 2）		

エ 二酸化炭素を排出しない熱エネルギーの導入

項目	計画	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
有無	導入なし	導入なし		
内容				

オ SBT等イニシアチブへの加盟・賛同

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
SBT	該当なし	該当なし		
RE100	該当なし	該当なし		
RE Action	該当なし	該当なし		
TCFD	該当なし	該当なし		

カ サプライチェーン全体での削減の取組

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	記載なし	記載なし		
内容				

(2) 市内事業所の取組

ア 川崎CNブランドの認定の取得

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	製品・技術等の利用なし	製品・技術等の利用なし		
認証年度				

イ 川崎メカニズム認証制度の認証の取得

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	取得なし	取得なし		
認証年度				

備考 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。

8 地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項（3から7までの事項を除く。）
 （各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。）

目標年度までの 計画	廃棄物再資源化推進：リサイクル率99%以上
第1年度	廃棄物再資源化推進：リサイクル率99%以上
第2年度	
第3年度	